

「1950年代教育史」研究部会（第27回）

日時：2018年7月6日（金）13:30～16:00

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代 各兼任研究員

吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

欠席：西山伸兼任研究員

内容：（1）大島宏氏研究報告：「都道府県教育史にみる高等学校の分校 2」

◆前回に続き都道府県教育史のなかの高等学校関係の記述を収集

◎発足当時の分校：記述をみると、県立の分校も市町村立が多く、分校の維持費も同様

◎分校での教育について

教育課程：ほとんど記述無し 教育基準：全国的に劣悪でその改善が課題

◎1950年代の分校統廃合

・前半：51年頃の方針作成 50年 地方財政平衡交付金法の影響か

・後半：55年の地方財政法の施行の指摘（48年制定・55年一部改正）

別に高校生急増対策としての分校統合計画・町村合併との関連

◎定時制課程・分校の存在意義

・当初は卒業目的でなく、一部・短期の課程を希望するものが多いが、徐々に全日制不合格者の入学が各地で指摘された→1960年代の高校全入運動との関連は

（2）鳥居和代文献研究報告：「千葉県総合教育センター所蔵資料について(3)―『基地をもつ農漁村における学校経営上の問題点とその対策』（1956年）―」（教育センターのみに所蔵されていた。豊海小・中学校報告書）コピー・撮影はNG

・研究指定校として、「基地教育研究部」立ち上げ

豊海基地問題の外観（高射砲場 豊海中学校：1Km内 豊海小学校：1.5Km内）

研究と実践の報告（豊海小学校／豊海中学校）

・長欠生徒の経過と今後の問題点

豊海中学校の長期欠席率（1949年～）：占領期に高い比率

基地対策教員（1955年～）：活動実態は不詳 父兄意識の啓蒙や出席の勧奨など

騒音問題と視聴覚教育：騒音で通常の授業が成り立たず

映画教室で社会教育映画などの鑑賞（『九十九里浜の子供たち』も）

・次回研究会は、2018年8月7日（火）13:00～ 米田、西山研究員

・次回は9月7日（金）13:00～。